



戸定が丘歴史公園

明治維新により、徳川家は権力の座を離れました。明治以降の近代徳川家の住まいと庭園が一般公開されている唯一の場所が戸定が丘歴史公園です。

江戸幕府最後の将軍・徳川慶喜(1837-1913)の弟・昭武(1853-1910)は1884年4月に戸定邸の座敷開きを行い、1890年末に庭園の整備を終えました。かつて7万㎡を超えていた敷地の約3分の1が、現在、戸定が丘歴史公園となっています。園内には戸定邸を公開している戸定歴史館や茶室の松雲亭があります。

江戸川や富士山を望める標高25m程の園内には昭武が運び上げたコウヤマキやヒヨクヒバの巨木が残り、梅、ペニシダレザクラ、ツツジなど四季折々の花を楽しむことができます。緑豊かな園内は鳥の鳴き声が絶えません。



東屋庭園から望む富士山



書院造庭園から見るツツジと戸定邸

利用案内

入館時間 | AM9:30 ~ PM4:30 (PM5:00閉館)

休館日 | 月曜日(ただし、休館となる日が祝日にあたるときは翌日を休館とします。)
年末年始(12月28日~1月4日)
展示替期間(歴史館のみ)

入館料金

区分	歴史館・戸定邸 共通入館料	戸定邸入館料 (1施設のみ)	歴史館入館料
一般	¥320(250)	¥250(200)	¥150(120)
高校・大学生	¥160(120)	¥100(80)	¥100(80)

※()内は20名以上の団体料金
※中学生以下は無料
※歴史館の特別展はその都度定める額

駐車場 | 普通車46台
大型バス6台(バスは電話で要予約)



交通 | JR常磐線松戸駅東口下車徒歩10分

〒271-0092 松戸市松戸714-1
TEL 047-362-2050 FAX 047-361-0056
<https://www.city.matsudo.chiba.jp/tojo/>

松戸市戸定歴史館

[許可のない複製・使用を禁止します。]



ホームページ
はこちらから

松戸市 戸定歴史館

国指定重要文化財

戸定邸

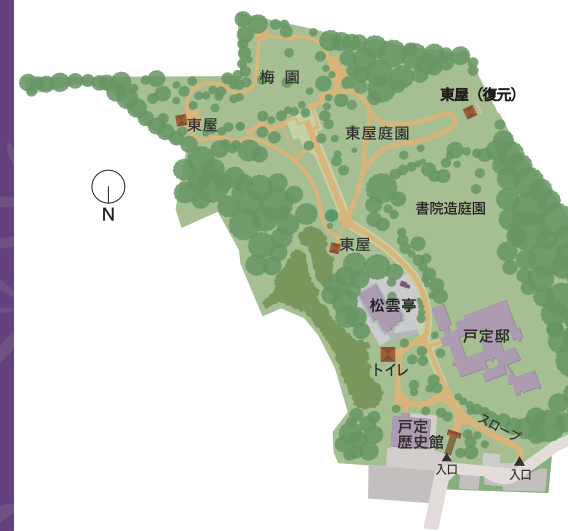
国指定名勝

旧徳川昭武庭園

とじょう 戸定歴史館

とじょう邸に隣接する博物館。戸定邸と庭園の公開や徳川昭武の遺品を中心とする松戸徳川家伝来品、1867年パリ万国博覧会関係資料の展示を行っています。

徳川昭武が將軍名代として派遣された万国博覧会に関する資料や幕末から明治にかけての古写真、戸定邸の歴史を語る文書や調度品、昭武が亡くなるまで手元にあった彼の遺品などを順次公開しています。数ヶ月に一度は展示替えのため、展示室のみがお休みとなる期間があります。





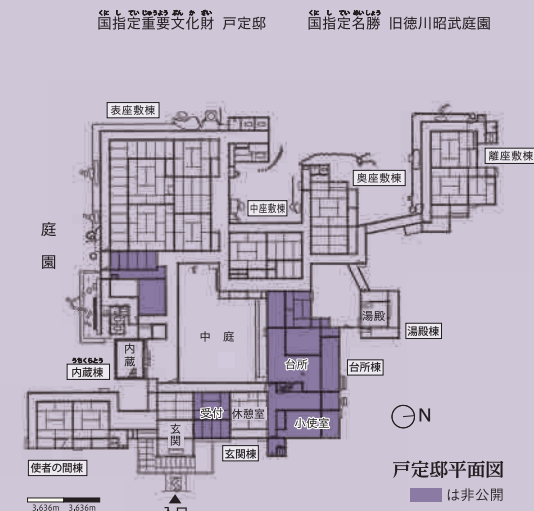
戸定邸・庭園

明治時代の徳川家の住まいがほぼ完全に残る唯一の建物です。純和風、木造平屋一部二階建で、建設したのは徳川昭武です。約2年の建設期間を経て1884年4月に座敷開きが行われました。増築を経て、現在は9棟が廊下で結ばれ、部屋数は23を数えます。

基本的には江戸時代の大名屋敷の系譜上にありながら、徳川家が権力の座を離れたため、生活様式が大きく変化し、規模は著しく縮小しています。最上等の杉材をふだんに使う一方で装飾を最小限に留めた空間には、静かな気品が漂っています。

戸定邸表座敷棟の南と西には芝生の庭が広がります。徳川昭武が建物との調和に心血を注いだ庭園です。

建物に接する庭では、南から東側へと連なるコウヤマキと北西方向のアオギリの木立が洋風技法による芝生面をはさみます。地面は南西方向に丘をなし、マツ木立の先で東屋のあるもうひとつの庭園とつながります。洋風技法による芝生面は、国内現存最古で、樹木の木立を主要景観に取り入れる手法は類例がありません。戸定邸から西に望む江戸川と富士山も見所です。



明治時代の戸定邸(部分) 1898年5月 徳川慶喜撮影

1867年 パリ万博 関係品

徳川昭武がヨーロッパで着用した陣羽織

生地に金糸をふんだんに使い、背中には三葉葵紋を表しています。



マルセイユでの徳川昭武一行(部分) 1867年4月 ウァレリー撮影

徳川昭武

1853年10月26日
—1910年7月3日



水戸藩主・斉昭の18男。兄の慶喜は、13歳の昭武を将軍家へ迎え、将軍候補の身分を与えて、1867年パリ万国博覧会へ将軍名代として派遣しました。フランスとの連携で幕府の窮地を打開するためでした。昭武はフランス以外にも5カ国を歴訪して各国元首と交流しました。各国の新聞は昭武を次期将軍の有力候補として紹介しました。明治維新による帰国後、最後の水戸藩主となりましたが、既に幕府は存在しません。彼は幻の将軍となったのです。

その後、パリ再留学の後、天皇から定期的に拝謁を賜る麝香間祇候となり、29歳の時に隠居。華やかさを求めず実質を重んじた彼の生涯は、その美学が投影された建物や庭園、趣味であった写真などの文化財を残しました。また、作庭家としても高く評価されています。

徳川慶喜

1837年10月28日
—1913年11月22日



江戸幕府15代将軍。将軍在位1867.1.10～11.10。水戸藩主・斉昭の7男。9歳の時、将軍の意向により将軍家に迎えられ、有力な将軍候補となりました。政治及び外交交渉で卓越した手腕を発揮し、衰退した幕府を蘇らせるため、フランスと連携した外交、軍事、行政、経済面での改革を強力に推し進めました。その姿は、木戸孝允から家康の再来を見るようだと評されるほどでした。

しかし、時代には抗いがたく、1867年11月9日、政権を朝廷に帰すことを建白し、翌日勅許を得て、幕府の政治に終止符を打ちました。鳥羽伏見での敗戦後は、一時死罪宣告を受けますが、恭順路線を貫きました。維新後、静岡で30年間隠棲し、1898年に明治天皇に謁見、実質的な名誉回復をとげました。1902年には国家への偉勲により公爵を授けられました。変革の当事者が引き受けなければならない重荷を体現したかのような人生でした。彼が残した油絵、刺繍、写真など数多くの作品は貴重な文化財となっています。

徳川家伝来品

元スイス特命全權公使・エメ＝アンペールから徳川昭武に贈られた懐中時計
1867年



薩摩切子 幕末に制作されたカットガラス



車上の小児 徳川昭武撮影